巨匠シリーズの個展　浅葉克己展 ― 磯辺行久（美術家）、原広司（建築家）、つづく３人目

会期	2015年10月10日［土］– 2016年1月11日［月・祝］
開館時間	10：00–17：00（土日祝は延長あり・入場は閉館の30分前まで）
休館日	月曜（祝日の場合、翌平日）
料金	一般：800円（600円）、65歳以上の方・大高生600円（500円）、中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその付添者（1名）は無料。 上記料金で入館当日に限り、同時開催常設展もご覧いただけます。
主催	市原湖畔美術館［指定管理者：アートフロントギャラリー］
協力	いなだストーン、公益財団法人古代オリエント博物館、株式会社凸版印刷、FIRST UNIVERSAL PRESS、株式会社ミタ製版、ミサワホーム株式会社、株式会社モリサワ

Photo: Kaoru SUZUKI

展覧会概要

市原湖畔美術館では、年に一度の巨匠シリーズの展覧会を開催してきました。本シリーズでは、「世界をどう見るのか」という点をテーマとしてこれまで、美術家・磯辺行久（2013年8〜11月）、建築家・原広司（2014年10月〜12月）の個展を開催してきました。3回目となる本展では、日本を代表するアートディレクター／グラフィックデザイナー・浅葉克己の展覧会を開催します。
70年〜80年代には西武百貨店「おいしい生活」やサントリー「夢街道」等、同時代を象徴するような数々の広告を手がけた浅葉克己は、デザイナーとして活躍するに留まらず、文字研究者として、また時には卓球選手として、今に至るまで精力的な活動を続けています。
本展では、浅葉の幅広い活動の一端を垣間見るべく、ポスターをはじめ新作を含む作品を展示します。「デザイン・文字・卓球」という3つの項目で構成され、氏がこれらを通して見る世界を紹介します。

主な展示作品

デザイン生活60年、
卓球生活40年、
書道生活20年、

デザイナー・浅葉克己 ーこれまでの作品とバウハウス
これまでの浅葉の仕事をコラージュにしたポスター作品および、バウハウス*のデザイナーの面々を取り上げたポスター作品を一堂に会し、アートディレクター／デザイナーとしての浅葉克己を紹介します。
*バウハウス…20世紀初頭ドイツにたった総合造形学校。近代デザイン教育の礎を築いた。

地球文字探検家・浅葉克己　ー最古の文字・楔形文字への挑戦
本展の軸となるのは、新作となる楔形文字を扱った作品。文字の霊に取り憑かれるアッシリアの文字研究者の物語を描いた中島敦の小説「文字禍」へのオマージュ作品として新作を展開します。
また、浅葉がこれまで研究してきた現存するトンパ文字や円盤文字なども取り上げ、地球文字探検家として浅葉克己に焦点をあて、なぜ文字に注目するのかといった背景にせまります。

卓球選手・浅葉克己　ー展示会場に卓球台が登場！
卓球6段を持ち、卓球選手として、いまも試合に挑む浅葉克己。一体なぜ卓球を？！本展では、雑誌「卓球王国」誌上で連載を続けるグラフィックと文章のコラム「浅葉克己のひとりピンポン外交」をパネル化して展示。会期中はもちろん卓球大会も開催予定。

作家プロフィール

浅葉克己（あさば・かつみ）

1940年神奈川県生まれ。桑沢デザイン研究所、ライトパブリシティを経て、75年浅葉克己デザイン室を設立。サントリー「夢街道」、西武百貨店「おいしい生活」、武田薬品「アリナミンA」、ミサワホーム「家ではスローにん」等、数々の広告を手がける。民主党ロゴマークを制作。日本アカデミー賞、紫綬褒章など受賞多数。東京ADC委員、東京TDC理事長、JAGDA理事、国際グラフィック連盟日本代表、東京造形大学・京都精華大学客員教授。卓球六段。'08年に21_21 DESIGN SIGHT「祈りの痕跡。」展を開催。同展の空間デザインと出品作品「浅葉克己日記」で2009年ADCグランプリを受賞。桑沢デザイン研究所10代目所長。卓球六段。

関連イベント

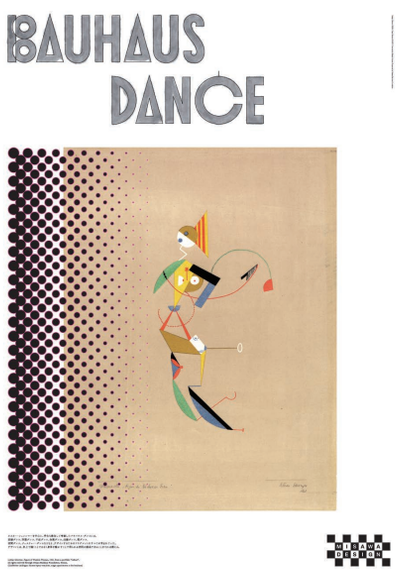
10/10 展覧会オープニング記念　卓球大会

美術館の敷地内に卓球台が登場！展覧会初日には、オープニングを記念して、卓球大会を開催します。

そのほか、トークイベント等を開催予定。決まり次第ウェブサイトにてお伝えします。

作品画像

ASABA'S TYPOGRAPHY「版下コラージュ」



MISAWADESIGN BAUHAUS 2014

西武「おいしい生活」

アクセス

所在地：〒290-0554　千葉県市原市不入75-1
電車で：JR 内房線五井駅乗り換え・小湊鉄道「高滝」駅より徒歩20 分
お車で：圏央道「市原鶴舞IC」より約５分
高速バスで：東京駅・羽田空港・横浜駅より約１時間
（市原鶴舞バスターミナル経由、タクシー又は路線バス利用　約５分）

広報についてのお問い合わせ

市原湖畔美術館　担当：渡辺
tel: 0436-98-1525　fax:0436-98-1521
press@lsm-ichihara.jp